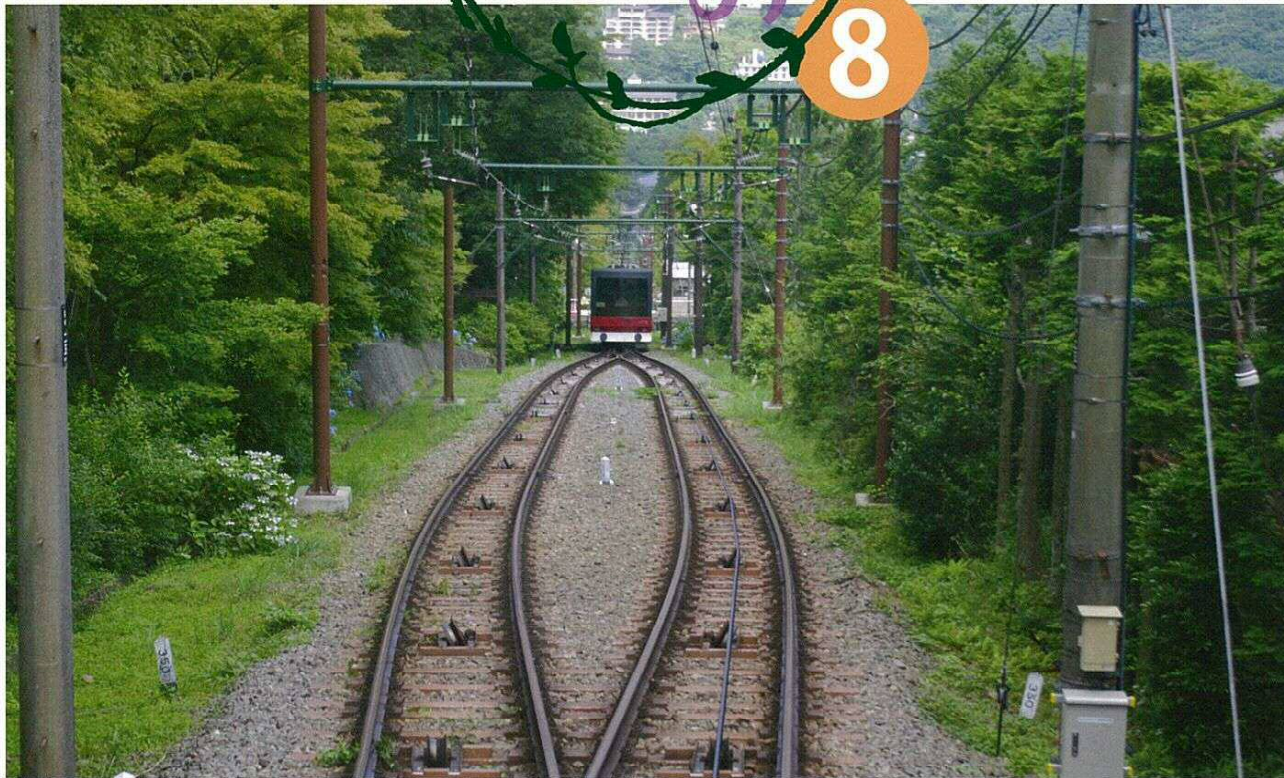


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



消えない不安

大学受験に失敗し浪人をした。これほどに不安に感じたことはない。一年間「もし今度合格しなかったら」と苦しんだ。新年にたまたま神社で合格祈願をした。合格通知を頂いたときは、不安から解放され本当に嬉しかった。

しかしこの感動は一週間程で薄らいでいった。東京での一人暮らしに期待しつつも不安の方が大きかった。東京に出てから、無事合格出来たお礼参りをしていないことに気が付いた。あのわらをも掴むような思いはどこへ消えてしまったのか。完全に過去のことなり、新たななる不安の中にいた。その時、「これを繰り返し続けるのか」という漠然とした不安を感じたのを覚えている。

『涅槃経』に「唯現在を見て、未来を見ず」という言葉があつた。いつも不安を抱えそれが克服されることを夢見ながらも、今日只今の欲求に振り回され未来を見失うのが、この不安の正体ではないだろうか。それはいくら条件が整っても、いくら願いが叶つてもぬぐいきれない不安である。

時代を挙げて、何よりも私自身が、この不安の中にいる感覚を軽んじ、マイナスだと握り潰し誤魔化してきた。しかしこの消えない不安こそ人生を尋ねる手掛かりなんだと叱られた。

群生海

現実を生きる

やはぎ ともえ
矢萩 友恵さん



今回は元R&B歌手で現在介護の仕事をしている矢萩友恵さんにお話を伺います。

印象に残るステージ

二つありまして、一つはロサンゼルススのロキシーシアターという所ですけども、有名アーティストの登竜門と言われている所です。現地の人でも通過するのは難しいと言われるそのステージで歌えた事です。

もう一つは、横浜アリーナで沢山のお客さんの前で歌えた事が凄く気持ち良かった事です。

歌手から介護へ

約七年程前ですが、アスベスト塵肺という病気になり音楽活動を辞めざるを得ない状況になりました。音楽の仕事が軌道に乗って十年程経ったという節目でもあり、とてもショックでした。この先歌えないとなるとどうやって生活していったらいいのだろうかとも思いました。

そついう最中、近所の方からの勧めもあり専門学校に通いヘルパーの資格を取って、歌手から介護

という今までとは全く違う仕事を始める事になりました。

母になる

私の今煩っている病気はもう一つあります。多発性子宮筋腫といって、拳大の大きな筋腫がいくつもあり、それが右の卵巣を押し潰してしましました。病気を治して子供を持つ身体になるという事が夢だったので、それを知った時は凄くショックでした。

今お付き合いしている方と結婚の話も出ていたのですが、こういう状況なので断ろうとも思いました。しかし、病気を知った彼からの言葉は「早く見つかって良かったね」と、これからも一緒に背負って下さるようなどても力強いものでした。

とにかく事実を受け入れる迄が一番苦しいですけど、受け入れた後は向き合って付き合って、努力して将来先ず母になることが夢です。

それにはやっぱり周りの沢山の仲間だったし、家族が支えてくれていたというのが一番心強いですね。

(聞き手 大橋 伊知郎)



なんで?
9

「金仏壇の金」

真宗寺院の内陣、お仏壇は金で荘厳されます。これは『阿弥陀経』が極楽浄土の有様を「金を以てにけり」「金をとり」と金をもつて象徴的に表現されていることに由来します。

古来より金が伸長性に優れ化学的腐食に非常に強い特性があることは知られていたのでしょうか。強いということは阿弥陀如来の用きが無量であり永遠であることを表し、更に柔軟性に富んでいる特性は仏様が様々な人に応じて用きかけて下さっていることを表します。

『阿弥陀経』には様々な宝石が出てきますが、金で「地」を表します。つまり自分の思いに迷う私達を大地(本来)に呼び帰すと誓っておられるのです。それは現実のただ中で本来に立ち帰り生きる意味を訪ねる力を賜ることでもあります。

(山崎 哲記)

十二光の最後は、超日月光で、阿弥陀仏の智慧の光は、月日の光を超えているとたとえられます。親鸞聖人は、超日月光について、「光明月日に勝過して 超日月光となづけたり

釈迦嘆じてなおつきず 無等等を

帰命せよ」(阿弥陀仏の光明は、この世の月や太陽の光よりはるかに超え勝れているので、超日月光という。この光明の徳を、釈迦は言葉を尽くして讃えるが、ほめ尽くせない。このたぐいまれな阿弥陀仏に帰依しよう。)」と和讃されます。

今年は、金環日食や部分月食で、日月を仰ぐ機会がありました。電気の光になれてしまった私たちは、太陽や月の光のはたらきなど忘れて生活しています。まして、太陽・月・地球の絶妙のバランスが少しでも狂えば、生物が生存できないことなど、気づかずにいます。昔の人は、立派な作物ができる。「今年は日照りが良かったんでなあ」といって、いただくことがよくありました。月日の光が、すべての生物を生きたさせるのである。

ると、太陽の温かさや月夜の恩恵を実感する生活がありました。

親鸞聖人は、「ある『経』には、観音を宝応声菩薩となづけて、日天子としめす。これは無明の黒闇をはらわ



崇めておられます。その上で、「超といふは、この弥陀の光明は、日月の光にすぐれたまふゆへに、超とまふすなり。超は余のひかりにすぐれこえたまへりとしらせむとて、超日月光

松井憲一

正信偈の話 ⑫

普放無量無辺光、無碍無対光炎王、清浄歓喜智慧光、
不断難思無称光、超日月光照慶刹。一切群生蒙光照。
(あまねく、無量・無辺光、無碍・無対・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、
不断・難思・無称光、超日月光を放って、慶刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る。)

とまふすなり。
『弥陀如来名号
徳』といわれま

日月の光を超
える超日月光は、
太陽や月の光で
は決して見えな
い、観音や勢至の
光もとどかない
人間の心の奥底
「欲もおおく、い
かり、はらだち、
そねみ、ねたむこ
ころ(『一念多念
文意』)を根こそ

ぎ照らすのです。お釈迦様は、苦行の山を降りて、苦しみの起こってくるもとを尋ねて菩提樹の下で瞑想されました。そして、明けの明星が輝くとき、遂にその原因は無明(愚かさ)に

あると、覚られました。その覚りの内容である無明の暗夜を照らし出したのが、阿弥陀仏の光・超日月光です。その感動は「釈迦嘆じてなおつきず」といわれ、「無等等(どこにも等しく等しいものない)」阿弥陀仏への帰依のみが、闇を破つて明るさに出遇える道と讃えられます。

こうして、十二の名前になった阿弥陀仏の光は、妻が「外は雨 夫はゴルフ 天罰や」といえば、夫が「スマートフォン 妻と同じで 操れず」という川柳のように、自分の都合をいいあつて塵のようにバラバラになつて生活するくまなく照らして、迷っていることを知らしめます。それで、この光に遇えば、「三垢消滅し、身意柔軟にして、歓喜踊躍し善心を焉に生ず(『大無量寿経』)」と自分を閉塞させている愚かさに気づかせ、手放してお任せする、身心ともに柔らかな生き方があると教えられます。こうして、親鸞聖人は、この阿弥陀仏の光の徳を蒙らない者は、一人もいないと喜ばれました。

言葉の山門

生まれ変われる としたら
今と同じように 生まれてきたい

この言葉はスウェーデン出身のゴスペルシンガー、レーナ・マリアさんの言葉です。かつて九〇年代に、久米宏さんの『ニュースステーション』に出演された時、放映されたビデオの中で言われました。レーナ・マリアさんが日本の高校でコンサートをした後、「今度生まれて来るとしたら何を望みますか」とインタビュウを受け、「生まれ変われるとしたら今と同じように生まれてきたい」と答えられたのです。

レーナさんは、一九六八年、スウェーデン中南部のハーボ村に生まれまします。障害のために、出生時から両腕がなく、左脚が右脚の半分の長さでした。このころ重い障害を持った子どもは、両親とは一緒に暮らさず、施設に行つて世話をしてもらうことが多かったそうです。

レーナさんの両親も迷いに迷った

そうですが、「腕がなくても、この子には家族が必要なんだ」と、家でレーナさんを育てることを決心したそうです。お父さんとお母さんの大きな愛に守られて、人生をスタートさせたのです。

一九八八年二〇歳のとき、ソウルパリンピックに出場し、背泳四位、自由形五位、平泳ぎ六位に入賞します。その後、音楽で生きることを決意します。一九九五年ストックホルムで結婚。一九九八年長野パリンピック(冬季)の開会式で歌いました。

レーナさんの言葉をもう少し紹介します。

「神様は私に手の代わりに心の中に豊かさを与え、私が自分自身を愛せるようにして下さいました」「一番危険なのは、自分をあわれむ気持ちに陥ることだとおもいます」「好き

なこと、やりたいこと、体験したいことがたくさんあります。そのどれもが可能性に満ちているように思えて。」「私が生きるのに必要な力や喜びは、すべて神様が与えて下さることがわかったので、『私には乏しいことがない(聖書・詩編23篇)』のです」またレーナ・マリアさんのお母さんは「娘を通じて、神様は、すべての人は等しい価値があるという真理を教えて下さいました」と話されました。

私が私であるとき、人はひかり輝くのでしょうか。自分を引き受けたときに、誰に代わってもらうこともない、自分の人生が始まるのです。

(岸本 秀一 記)

葬儀

あれこれ

4

葬儀のお勤めするとき、その仏事の趣旨を尊前（ご本尊の前で）にて参詣者に告げるために読み上げる文章を表白（ひょうびやく）といいます。また修法（しゅほう）（密教の教理を実現させるための修行法）の始めによみあげられるものを開白（かいびやく）もいわれ、古くは伝教大師や弘法大師に名作が多く、平安時代には多くの表白集（へんぱしゅう）が編纂（へんさん）されたといわれています。

佛光寺派の表白文の中に「願わくばこの勝縁（しょうえん）に遇（あ）う道俗（だうぞく）、いよいよ本願名号（ほんがんめいごう）を聞信（もんしん）し」「無辺（むへん）の生死海（しじうかい）を尽くさんと欲（ほつ）す」とあります。読経は亡き人への供養（くやう）という認識（にんしき）が根強い中で、今日（こんにち）いただいた仏縁（ぶつえん）は私（わたし）のためであり、念仏の教えによって迷い多き娑婆（さ婆）世界（せかい）を生き抜いて欲しいという故人からの願いが述べられています。そのために葬儀（そうぎ）は単に悲しい縁（えん）ではなく、私（わたし）を仏の教えに導く勝縁（しょうえん）（尊く勝れた縁）であったのです。

（木村 専正 記）

日 誌

6月 16 日

定例聞法会

混声合唱団「エコー」練習

6月 17 日

城北ブロック会総会・聞法会

（川口リリア 参加者 18 名）

6月 19 日

教行信証「信巻」に聞く（第 80 回）

講師 宗 正元師

6月 20 日・21 日

本山・布教講習会

（岸本住職・木村主任・山崎哲 参加）

6月 23 日

同行会「正信偈の教え」に聞く

法話 仲井 真裕

常照会（第 8 次聞法推進員）

布教大会（木村主任 参加）

6月 24 日

評議員会総会（参加者 27 名）

6月 27 日・28 日

宗祖忌

7月 4 日

婦人会聞法会

本山リーフレットに聞く

「親を殴りたい!？」

7月 7 日

同行会「正信偈の教え」に聞く

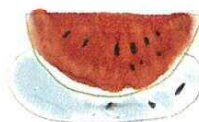
法話 岸本住職

7月 7 日・8 日

中興忌

7月 13 日～16 日

盂蘭盆会



掲示板

平成24年

8月

4日(土) 午後3時半

混声合唱団「エコー」練習

13日(月)～16日(木)

盂蘭盆会

25日(土) 午後3時半

混声合唱団「エコー」練習

26日(日) 午後5時半

青年会主催バーベキュー大会



えこお志お礼

滋賀県

浄満寺 様

島根県浜田市

浅浦 正雄 様

狛江市

酒見 はま子 様

船橋市

成舞 龍 様

栃木県

大塚 静江 様



編集後記

お盆参りで墨田区・向島を巡りました。どのお宅に伺っても5月22日に開業した「東京スカイツリー」の話題で話が弾みました。地元の利とでもいうのでしょうか、買い物が便利になったとか、夕涼みのためによく水族館やプラネタリウムを利用すると仰っていました。

その反面、休日の交通渋滞や街の防犯のため、町内会で防犯カメラを増設したという話も伺いました。街の様子が様変わりすると同時に、地元で暮らす人々の暮らしにも大きな変化が生じているようです。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>